



3016



誘善司ヲ設置シ外教ヲ防カン事ヲ希望スル

建言



維新ノ初運ニ當リ宣教使ノ設置アリ尋テ教部省ニ至リ
神官僧侶ヲ以テ教導職ニ補セラレ三條教則ヲ播布スト
雖氏遂ニ今日ニ至リ能ク之ヲ妨クノ實功ヲ見ル事ヲ得
ス實ニ仰歎ノ至リト謂フヘシ抑外教ノ我皇國ノ風俗
ニ害アル事枚擧スヘカラス第一皇國ニハ祭祀ヲ重シ彼
ハ祖先ヲ祭テス祭祀ハ人情ノ厚ニ出ツ苟モ祖先ヲ死セ
リトナシ之ヲ祭テス民德歸厚ノ風ヲ乱リ人情ノ輕薄此
ニ始リ我妨害トナル誰カ之ヲ知ラサラン在昔織田豊臣
二氏之ヲ排斥シ徳川氏ニ至リ島原騷乱後ヨリ一層其禁

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

ヲ嚴ニシ終ニ天下億兆ノ人民ヲシテ上ハ公家武家ヨリ
士農工商ニ至ル迄死後ハ必ス釋教ニ歸入シ戒名ヲ稱シ
出家シテ僧尼ト為ラシムルノ制規ヲ設ケ各寺ニ檀家ヲ
定メ人々ヲメ師弟ノ義ヲ結ハシム苟モ其制規ニ背ク者
アルハ政府之ヲ罰シ天下億兆ノ人民一人トシテ釋教
ノ門徒ナラサル者ナシ是レ法ニ取テハ人々ニ佛法ノ因
縁ヲ結ハシメ國ニ於テハ邪教佑ヲ乱ルノ弊害ヲ防キ實
ニ美善ヲ盡スノ良制ト謂フヘキナリ當時政府ヨリ佛法
ヲ外護スルヲ以テ高僧碩學其人ニ乏シカラス然シテ天
下治安ノ久シキ一般遊怠ノ風ニ流レ僧侶モ亦時ト移リ
破戒無識ノ者少シトセス近年ニ至リ儒術ヲ學ビ國學ヲ
唱フル者往々僧徒ヲ仇視シ排佛ノ說漸ク起リ維新ノ初

運ニ際シ廢佛論大ニ沸騰シ客氣熾盛ノ官吏ニ至リテハ
暴斷ニ寺院ヲ毀廢シ還俗僧ヲ歸正ト稱シ神祇官へ僧侶
ヲ復飾ヲ出
願スレハ其指令ニ令歸正神妙之事ニ候云々トナリ以テ一時ノ愉快ヲ取ルニ至ル
然レ氏千有余年 聖皇賢臣ノ外護ヲ以テ流布シ祖師先
德ノ願心堅徹セル佛法ナレハ其勢終ニ滅スヘカラス宣
教使ヲ設ケテレ神道者流ヲ撰擧シ四方ニ派遣セラレタ
ルモ其唱アル所終ニ一家言ニ流レ官意ヲ貫徹セシムル
ヲ得ス宣教宣布ノ詔ニ治教上ニ明カニシテ風俗下ニ美
ナリ云云ノ辭アリ然レハ則宣教ノ教ハ宗教ニ非
サハ事明教部省ニ至リ神ニ偏セス佛ヲ用ヒス政府ヨリ
三條教則ヲ出シ神官僧侶ヲシテ之ヲ播布セシメ大ニ僧
侶ヲ檢束シ說法ノ名称ヲ改メ說教ト為シ佛敎文說不若
云々指令アリ
妄リニ佛律ヲ解キ俗服着用肉食佛法ヲシテ漸滅セシメ

ント欲スルノ勢アリ然氏各宗中持律堅固苦修鍊行ノ者
往々存在シ佛法ノ命脈ヲ相續シ今日ニ至リテハ官威ヲ
挿ニ排佛ヲ行フ者ナク僧侶其道ヲ修スルニ更ニ障累ア
ル事ナシ是他ナシ千有余年官府率先シテ流布セシ佛法
ナルヲ以テ終ニ其滅セサル良ニ以ヘ有ル哉然氏一度此
ノ遭厄ヲ経タル佛法ナレハ再ニ熾盛ナラント欲スル
氏官府之ヲ補助セサレハ容易ニ其法ヲ興隆スルヲ得ル
苟モ外教ハ皇國ニ妨害アリト見認スルヤ之ヲ防クノ方
法ヲ設クヘシ然シテ外教防禦干城トナル佛法ヲシテ衰
頹此ニ至ラシメ外教ノ蔓延日ニ其境域ヲ弘フスル亦怪
ムヘシ然リト雖氏今日外國交際ヲ開ク時ニ當テハ官府
公然ト外教ヲ防クヘカラス若シ之ヲ不問ニ置ク一日遲

キ氏ハ一日ノ害ヲ醸シ一月延フ氏ハ一月ノ毒ヲ増ス丁
孰カ之ヲ知ラサラン故ニ邪教ヲ防禦セント欲セハ佛法
ニシテ大奮力ヲ發揮セシムルノ外他術アルヲ見ス夫レ
時勢ノ變遷スル古法必ス用ユヘカラス其事ノ脈絡ヲ逐
尋シ時勢ニ應スル是ヲ名ケテ能ク法ヲ變スルト云フ苟
モ其事ノ因子未ル如何ヲ問ハス突然新法ヲ立ツ是ヲ名
ケテ法ヲ乱ルト云フ維新已後神道者流ノ説是又由テ来
ル所ナシト云フヘカラス然レ氏其源流甚タ淺ク我佛教
ノ國教トナリ千有余年流布スルモノ豈同視スヘケンヤ
今佛教ノ隆盛ナル淵源ト其衰頹セル因由トヲ逐尋シ能
ク時勢ニ應スル立制ヲ得ルトキハ大ニ世間ヲ益スルニ
足ルヘシ夫レ佛法ノ本邦ニ東漸スル儒學ト相前後ス而

シテ千有余年排佛ノ説有ヨトナキノミナラス管家江家
ノ人殊ニ佛法ヲ翼賛スル少カラス管相公江帥等其人屈
指スヘカラス儒佛互ニ行ハレテ相悖ラス保元ノ乱後
儒學大ニ衰ヘ儒家其人ナク當時ノ禪僧支那ニ往來シ禪
餘ニ學フ所ノ文字能ク世間ノ用ヲ為外國往復ノ書牘ヲ
草シ一切ノ學事僧侶之ヲ專任スルニ至ル徳川氏ノ始テ
興ル時ニ當リ宋儒ノ書世間ニ流布シ排佛ノ説始メテ皇
國ニ及見シ忍岡ニ聖堂ヲ建テ列藩ニ學校ヲ設ケ其講習
スル所宋學ヲ用テ從前僧侶ノ兼任シタル文學ノ事務ヲ
儒者ノ專業ト為シ大ニ古昔ノ儒家ト其趣キヲ異ニシ苟
モ儒ノ名ヲ冒ス者ハ佛法ヲ排斥セルヲ以テ已ノ任ト為
スニ至ル然シテ僧侶ハ邪宗ヲ檢査スルヲ專任ト為シ追

善供養ヲ專業ト為シ愚民ニ至テハ僧侶ハ葬祭ヲ專務ト
スル者ナレハ生前ハ僧侶ニ求ル所ナク死後ニ至テ佛法
ニ依ル者ナリト思フ者少カラス佛法ノ衰頽斯ニ至ル近
年ニ至リ排佛説ノ盛ナル亦勢ノ然シムル所ナリ是人我
ノ妬心ヨリ起リタル一時ノ厄難ナレハ七日ニシテ來復
スルノ道理ハ磨滅スル事ナク排佛説ノ皇國ニ及見スル
纔二百余年ニ過ス我佛法ノ如キハ則チ然ラス 推古天
皇ノ御宇ニ東漸シ聖德太子ハ此法ヲ以テ皇國ノ文明ヲ
開キ歷朝ノ 聖皇賢臣此法ニ歸依國益ヲ為セシ事國史
ニ照々タレハ固ヨリ喋論ヲ用ヒス故ニ其由テ未ル所ヲ
追尋シテ今日ニ應スル良制ヲ設立セハ大ニ國家ニ用ヲ
為スヘシ古昔佛教ノ盛ナルニ當テハ僧侶ヲ諸國ニ遣シ

人民ヲ教導セシム之ヲ名ケテ國講師ト稱ス僧綱之ヲ撰
舉シ官府之ヲ命ス其講説スル所ハ世間出世ノ法ヲ兼テ
故ニ道路ヲ開キ山野ヲ開墾シ橋梁ヲ架スル等民間ノ事
業ヲ興ス事多クハ僧侶ノ勸奨ニ出ツ其事現今ニ存スル
多シ今日ノ時勢大ニ古昔ニ異ナリト雖モ國講師ノ故事
ニ倣ヒ僧侶ノ學識德行アル者ヲ撰舉シテ諸方ニ派遣セ
シメ人民ヲ教導セハ必ス益スル所アルヘシ然レモ此事
タル輕易ニ施行スヘキ法ニアラス此事ヲ施行セント欲
セハ社寺局中ニ誘善司ノ一局ヲ桓武天皇ノ勅ニ據災柁
福佛法最勝誘善利生無
若斯道設ケ事務長ヲ置僧侶中ヨリ其任ニ堪ヘタル者ヲ
登用シテ一等講讀師二等講讀師等ヲ置キ其事務ヲ協議
セシムヘシ德川氏ノ寺社奉行所ヘ日々金智院是官府ノ
ト増上寺トヨリ出仕シタルカ如シ

命スル所ナレハ旅費日當官ヨリ之ヲ給與スヘシ其費用
タル即今全國寺院ノ無稅地ニ相當ノ稅ヲ課シ其費用ニ
充ツレハ別途ノ費金ヲ用ヒスシテ其事ヲ成スニ足ルヘ
シ當今文部所轄ノ大小學校ハ藝術ヲ學習セシムル所ナ
レハ道德ヲ教導スルハ僧侶ノ專任トナス片ハ僧侶モ亦
返省スル所アリ諸宗ヲシテ異口同調ニ十善戒ヲ講説
セシメハ金光明經王法政理論等ノ所説ニ符合シ善人ノ
國內ニ蕃育スルヲ以テ諸天歡喜シ國安ヲ無窮ニ期スヘ
シ謹テ鄙言ヲ縷述シテ建言スル斯ノ如シ

明治十三年十一月廿八日

廣鴻縣平民

山内瑞圓

京橋山下町
十四番地寓



大隈參議閣下

